

# 特集にあたって

敗血症、外傷、熱傷などさまざまな急性期疾患において臓器障害は進行しやすく、重症例ではしばしば多臓器障害 (MODS) に陥ります。いったん多臓器障害が進行すると、医療の急速な進歩にもかかわらず、いまだその予後は不良であり、重篤な後遺症もみられます。すなわち、急性臓器障害の進行は生体にとって危機的な状況であり、“いかに制御して早く離脱するか”が最重要課題といえます。2016年2月に発表された、敗血症の新しい定義 (Sepsis-3) においても、急性臓器障害の進行がその診断基準に組み込まれました。

したがって救急現場においては、救急医、集中治療医、一般医師を問わず、急性臓器障害を迅速かつ的確に診断し、適切な治療をまず開始することが求められます。実際のベッドサイドにおける急性臓器障害のとらえ方や診断のコツ、注目される治療法やその工夫など、最近の知見を整理しておくことは救命への貴重なヒントとなります。

そこで本特集では、各急性臓器障害において最近注目される診断・治療のトピックスを、第一線でご活躍されている先生方に解説していただきました。教訓的な興味深い症例もご紹介いただき、成書には書かれていない診療における実践的な思考過程を時系列で提示してもらいました。ベッドサイド (初療など) で MODS を含むさまざまな急性臓器障害患者を診る際に、迅速かつ論理的な診断・治療をどのように進めるべきか、本特集には新鮮な知識と現場の知恵が豊富に盛り込まれています。

是非、明日からの急性臓器障害の診療に生かしていただきたいと願っています。